

ICTで建設業の未来を変える

情報部門では、最先端の技術を活用したもののづくりとスマートなワークスタイルを提案し続け、

建設業のリーディングカンパニーである大林組として、未来を創造していきます。

近年では、建設事業全体にBIMの導入による業務の生産性や品質の向上、現場へのiPadの導入など、

次世代ツールを積極的に開発・導入し、現場や各部門の抱える課題を解決。

最先端のICTの可能性を追求していきます。

求める人物像

日々進歩するICTに関心があり、思い描くシステムの実現に向けて積極的に自分の意見を発信し、取り組める人。



建築職(情報)の主な業務



デジタル推進部

デジタル推進部は、大林組のデジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進するため2020年4月に発足。DX施策の立案および推進、ICT基盤の整備などの業務を行っています。既存の課題を解決するだけでなく、先端ICTの持つ可能性の探求を行いながら、大林組の事業戦略を実現するDXを推し進めています。



iPDセンター

建設事業全体にBIM(Bilding Information Modeling)を導入し、既存の業務プロセスを改革して生産性や品質を向上させることを会社方針として掲げています。プロジェクトの企画段階から施工後の維持管理まで、業務の基盤データとしてBIMを一貫活用し、生産DXの源とするために、iPDセンターはBIMモデルの提供、プロジェクトにおける活用支援、運用管理、BIM関連の提案、検証、研究開発などを担当しています。



情報エンジニアリング部

施設利用者にとって便利で安全・安心な建物や社会のデジタルニーズに対応する高度に情報管理された建物をICTによって実現します。さらに建物の付加価値を高めることで、建設事業の競争力を向上させることも重要な役割のひとつです。プロジェクトの初期段階から企画・施工・導入・運営段階にいたるまで一貫してプロジェクトに携わり、ICT導入全般をトータルマネジメントできることが魅力です。

「使えて当たり前」の裏方仕事は、常に試行錯誤の繰り返し

入社して2～3年はグローバルICT推進室に配属され、アプリなどの開発・運用と、顔認証システムなど現場で利用されるシステム導入の仕事をしていました。顔認証システムの導入の際は、福島県原発施設の除染現場に直接足を運びながら行いました。このシステムが止まると工事に大きく影響するという責任感の中、現場が続いている間は、常にサポートをしていました。大変でしたが、今でも印象に残る仕事です。新しいシステムを取り入れた場合は、常に試行錯誤の繰り返しになります。ですが、トラブル等を乗り越えて解決できたときの達成感の大きさがこの仕事の醍醐味だと思います。

小間 誠貴

デジタル推進室 デジタル推進第二部
ICT基盤整備第二課 / 2017年入社

祖父が旧国鉄の職員で、一級建築士として活躍していたことが、建築に興味を持ったきっかけ。大学の研究室では、建築分野の情報システムについて研究していた。就職活動中に先輩から「大林組で情報系の採用がある」と聞き、自分の研究分野を活かせると思い、大林組への入社を決めた。

the Interview

目標は、現場から「BIMを使ってよかった」と言ってもらうこと

入社2年目から一貫してBIMに携わっており、現在はデジタル推進室iPDセンターに所属しています。BIM(Building Information Modeling)とは、3Dモデルを介して、部品の形状や性能、コスト、工順など、建築プロジェクトに関連するあらゆる情報を適切にデータベース化し、有効に活用できるツールです。また、iPDセンターとは、プロジェクト支援や社内BIM環境整備、研究開発など、BIMに関連する幅広い業務を行っている組織です。現在、私の所属しているチームは、BIMをより活用した建物品質・業務効率の向上のためのシステムづくりに力を注いでいます。私を含めたチーム

メンバーは、これまでの経験を通じて、BIMにはまだまだ伸びしろがあると感じています。それを現実のものとするために試行錯誤しながら、BIMソフトのアドインプログラム実装や、データベース設計・構築などに取り組んでいます。BIMは、これら活用のためのシステムが整ってこそ、最大限に効果を発揮します。将来的には、すべての現場から「BIMを使って良かった」と言ってもらえることを目標にして、日々の仕事を進めています。建築職情報系は「ICTのわかる建築エンジニア」として経験を積んでいきたい人には最適の職種だと思います。

現在はデジタル推進室で、社内ネットワーク基盤の整備や、新たなクラウドサービスの導入などを行っています。ネットワークインフラは、「使えて当たり前」のものを作る仕事。システムや技術は日々アップデートされるので、建築業以外の事例でも参考にできそうなものは取り入れたり、新しいことに挑戦したりするように心がけています。新しい情報はどんどん流れてくるので、その環境に合わせて自分もいかに変われるかが重要になってきます。これから入社したいと考える皆さんには、「食わず嫌い」せずに、新しいことにもどんどんチャレンジしてほしいです。

野口 傑史

デジタル推進室 iPDセンター技術管理部 技術課 / 2016年入社

大学では建築学科に所属し、ICTを活用した建築部品の管理手法や、部品加工ロボットの制御を研究。これまで学んだことを活かしつつ、大きな建物づくりに携わりたいと思い、建築職情報系の募集があった大林組を選んだ。大学で学んだことが今の仕事とつながっていると実感している。

